

平成17年6月10日
原子力安全対策課
(17-18)
<16時30分記者発表>

敦賀発電所2号機の原子炉手動停止について (原子炉格納容器内床面等でのホウ酸の発見の調査状況)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力116.0万kW）は、定格熱出力一定運転中のところ、6月5日に実施した格納容器内監視カメラによる点検で、1次冷却材ポンプ（C）ループ室地下2階床面等に付着物が確認されたことから、翌6日に同室内に入域し、付着物を採取して分析した結果、1次冷却材中に含まれる放射能とホウ酸が確認された。

なお、同室内には水たまりや水滴の滴下は認められず、1次冷却材の漏えいを監視している格納容器サンプル水位や格納容器内の放射線モニタ等に有意な変化は認められていない。

同室内は運転中放射線量率が高いことから、漏えい箇所の特定制や詳細な点検調査を行うため、原子炉を手動停止することとした。

なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

[平成17年6月8日発表済]

6月9日3時より出力降下を開始し、11時に発電を停止、14時に原子炉を停止した。

[格納容器内点検結果]

原子炉停止後に行った格納容器内点検の結果、漏えいの痕跡（ホウ酸）が見られたH鋼の真上にあるほう酸注入系統*¹のテストコネクタ弁*²（閉止状態）に取り付けられている閉止栓（スウェージロック）付近に、ホウ酸の析出と1次冷却水の非常にわずかな滴下が認められた。

また、当該弁のグランドパッキンの上部にも極くわずかなホウ酸の析出が認められた。

なお、当該箇所以外には、ホウ酸の析出は確認されなかった。

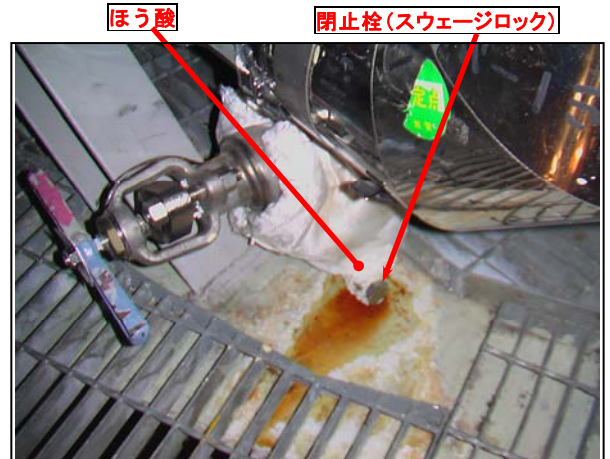
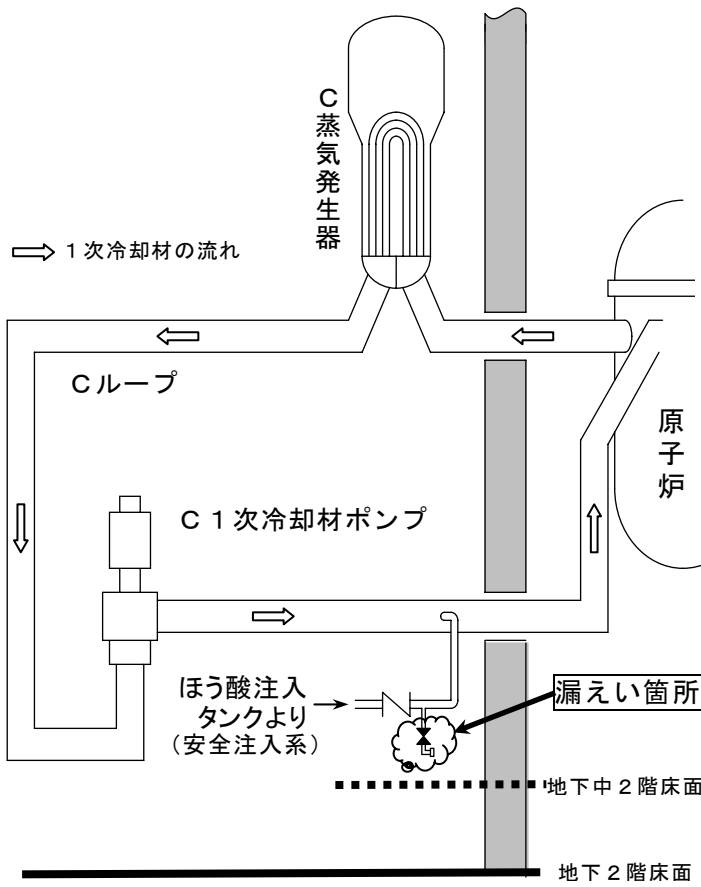
今後、当該箇所を一時的に隔離し、漏えいの原因等について詳細に調査を行うとともに、当該弁の手入れ等を行い、仮復旧する予定である。

* 1 : 非常用炉心冷却設備の一つで、事故時に中性子を吸収するほう酸を原子炉に注入する系統

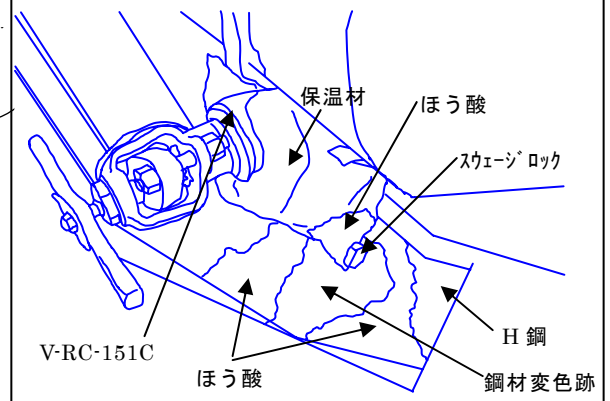
* 2 : 定期検査時の試験や水抜きの際に使用する弁

問い合わせ先(担当：伊藤)
内線2352・直通0776(20)0314

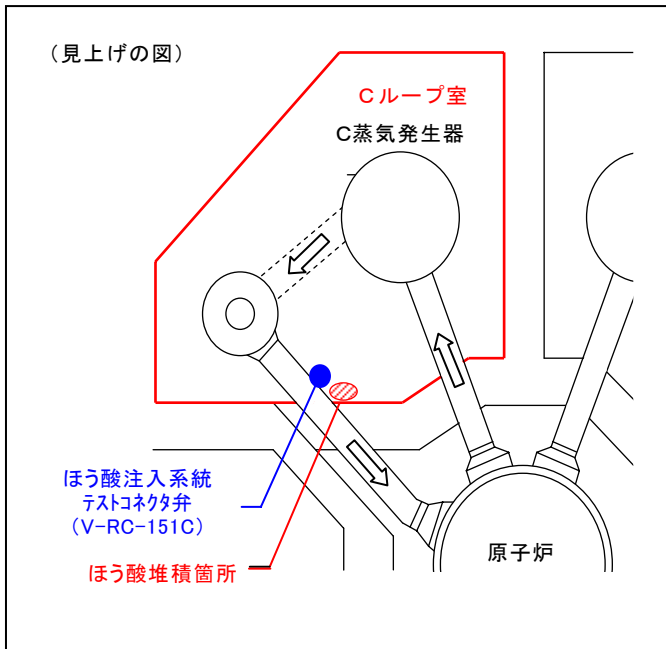
格納容器内点検結果



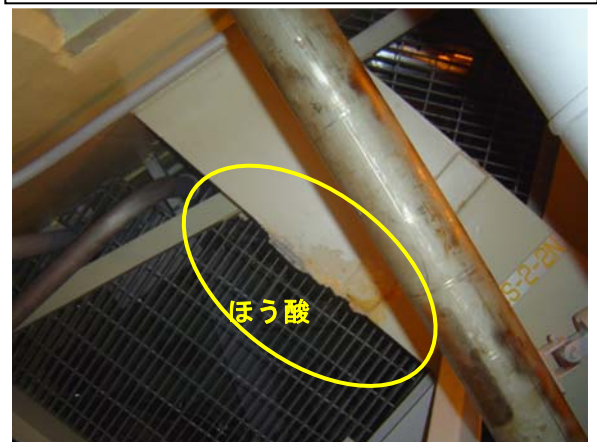
H鋼上部
ほう酸注入系統テストコネクタ弁 (V-RC-151C)



原子炉格納容器地下中2階



- 漏えい箇所の配管仕様
- ・ 材 料 : SUS316
 - ・ 公称外径 : 27.2mm
 - ・ 設計圧力 : 17.5 kg/cm²
 - ・ 設計温度 : 343℃



H鋼を床面より見上げた状況



原子炉格納容器地下2階床面